

4年に1度照準合わず

幕別町出身で、陸上競技日本女子短距離界を代表する福島千里（北海道八尾テックAC―帯南商高出）のロンドン五輪は、出場した3種目とも予選を突破できずに終わった。今季のレースでしつくりときていかなかった得意のスタートが、最初の種目の1000mでも本領を発揮できないまま。その後も立て直すことができず、2大会連続の五輪はほろ苦い結果となった。4年に1回の大舞台に照準を合わせる難しさを感じさせた。

陸上3種目
予選で敗退
得意のスタート不調



女子1000m予選で力走する福島千里＝3日、ロンドン（時事）

「内容より過程で反省」

前回の北京五輪で日本人女子として1000mに56年ぶりに出場して以降、福島は着実な歩みをみせていた。2010年に1000mで11秒21、2000mで22秒89の日本記録を樹立。11年の世界選手権で両種目とも準決勝に進んだ。今季は世界の決勝クラスと言われるスタートが不調。本人が「自分のレースの中で最も大切で、そこ（スタート）がうまくいかなければ、全体の走りも良くなる」と話すほど、キーになる部分だ。

不安を抱えたまま迎えたロンドン五輪。1000m予選では11秒41で組5着、全体で32位となり、準決勝（24位まで）に進めなかった。スタートのリアクションタイムは0・152秒と組で3番目。道ハイテクAC（恵庭）の中村宏之代表によると、五輪前の練習では非常に良い状態だっただけに、「70%と消化不良の走りだった。スタートは気持ちの問題。国内の1大会でも1秒1、2で走って臨んでいれば違った結果になったかもしれない」と悔しがる。

3日後の2000m予選は、自身の持つ日本記録より1秒25も遅い24秒14。リアクションタイムは0秒141と52人中トップだったが、走りは硬く後半は足が前に出ずに伸びなかった。1964年の東京五輪以来48年ぶりに出場した400mリレー予選は3走を務め、44秒25で1組の最下位だった。1000mの悪い流れを最後まで断ち切ることができなかった。

五輪前に事あるごとに言っていた「1本でも多く走りたい」という目標はかなえられなかった。「レース内容より、過程で反省することがある」と振り返った福島。ピークを合わせることができなかった悔しさをにじませた。

中村代表は4年後は2000mを主戦場と考えている。「スタートとコーナリングのうまさに持久力もある。世界で戦える能力は十分にある」と話す。福島も「リベンジしたい」と意欲をみせており、ロンドンの経験を今後の成長につなげられるか注目される。

（北雅貴）